

### 十二月の法座・行事

十二日・闍如上人御逮夜・常永代経  
(午後二時)

十三日・闍如上人御命日  
(午前八時)

二十七日・宗祖聖人御逮夜  
(午後二時)

二十八日・宗祖聖人御命日  
(午前八時)

三十一日・歳末昏時勤行  
(午後三時)

※諸般の事情により今月の同朋の会、正信偈書写の会、定例法話はお休みです。

### ◆仏前結婚式

二〇一七年十一月二十五日(土)、天満別院において尾関 大悟様、寺嶋 麗様の仏前結婚式を執り行いました。

ご結婚おめでとうございます。

別院では仏前結婚式を随時受け付けております。寺院関係の方々だけでなくご門徒の方々の挙式もご遠慮なくお申し込みください。

### 弥陀の回向の

御名すれば

功德は十方に

みちたまう

(法語カレンダーより)

### 編集後記

後一ヶ月で二〇一七年が終わります。今年が良い年だったかと自身に問いますが、何をもちて良い年になるかも定まっておらず、もつと良い年にできたはずと毎年のことですが、思います。一年を全力で生きることは難しいですが、日々を当たり前と思わず、大切に過ごすことができたなら、その結果が良い年だったと胸を張って言えることに繋がるのではないのでしょうか。これを機に意識して過ごして参ります。

堀河

霊園・墓石



### 天田石材店

本社 〒536-0001  
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
〒530-0042  
大阪市北区天満橋1丁目2番18  
TEL 06-6930-5075  
0120-30-5075  
FAX 06-6930-5078

# 六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役  
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃(八)』

南無阿弥陀佛をとふれば

難陀跋難大龍等

無量の龍神尊敬し

よるひるつねにまもるなり

(南無阿弥陀佛とお念仏を称えるならば、難陀王や跋難王をはじめとする八大龍王や、数え切れないほどの龍神が尊敬してくださり、夜昼常に護つてくださるのです。)

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院

大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五-一三三三五

代表者 輪番 長谷山法雄

このご和讃は、念仏者をすべての龍神が尊敬・護持する利益を詠ったものです。このご和讃の典拠となる経典も『金光明経』です。この経典の「鬼神品」には「難陀龍王・跋難龍王、かくのごときらの百千龍王あつて大神力をもつてつねに来たつて、この経を聴く者を擁護して昼夜離れず」とあります。現代人からすると、龍は空想上の怪物であり、軽んずるところが大きいようです。親鸞聖人はなぜこのような非科学的なことを言われているのでしょうか。

浄土和讃の中でもこの現世利益和讃は、当時生きていた人々の日常生活に密着したものであったようです。こ

こに出てくる龍神は、まさにその象徴でもあります。そもそも龍とは、日本に限らず世界各地の神話や伝説に出てきます。西洋では、悪や暗黒といったものを形象化した場合が多いようですが、東洋では、水や雨に関連して神格化された場合が多いようです。特に中国では、天子に関するものを象徴化して龍が使われています。日本では古来、海神や水神として神聖化され、祥瑞のしるしとする信仰も行われていました。

このように見ていきますと、龍、特に龍神や龍王などは、広い意味での自然、それも科学の対象となる自然ではなく、人間の理解や考えを遥かに超え

たところの自然ということができると、形而上。難しい言葉でいうと、形而上にあるものということになります。阿弥陀さまやお浄土なども、この形而上にあるものです。自力と他力ということとを考えると、このことが当てはまるとは。自力とはいわゆる形而下のこと、これは人間の理解できる範囲のことです。これに対して他力は形而上のことです。ですからよく世間一般で他人任せのことを他力本願と言いますが、他人任せということはあくか形而下のことで、自力ということになります。

南無阿弥陀仏とお念仏を称える者を八大龍王や数えきれないほどの龍神が尊敬してくださり、夜昼常に護つてくださることによって、南無阿弥陀仏ということが、いよいよ人間のはからいを超えた不滅のものとして認識できるのではないのでしょうか。

◆新年互礼会

日時 一月二十一日(日) 午後六時より  
場所 太閤園 淀川邸  
会費 一人 壹萬弍仟円

例年のごとく僧俗懇親の互礼会といたします。皆様多数のご参加をお待ちしております。

◆年末年始の行事予定

十二月三十一日 午後三時より 歳末昏時勤行  
元旦〜三日 午前八時より 修正会

※別院墓地では、元旦から三日まで、午前六時半から午後五時まで開門しております。(色花・線香等は九時より販売)お墓へは開門時間内にお参りいただけますようお願いいたします。

◎修正会とは

修正会とは年のはじめにあたり、仏さまの前へ出て仏さまの教えに生きようと決意を新たに真宗門徒の自覚を確かにする為の法要です。皆様お誘い合わせの上、是非お参りください。

◎お正月のお内仏のお飾りについて

お内仏は、前日の大晦日に年末のすす払いをし、隅々まで丁寧にお掃除ください。ご本尊前、上卓、前卓に打敷をかけます。打敷の色、模様等に決まりはありませんが、お正月らしい明るいものがあれば一層よいでしょう。お花は、若松の真、梅、南天、熊笹等を使って挿し交ぜいたします。お正月にはお華束でなく、「お鏡餅」を各尊前にお供えください。以上を大晦日の歳末勤行前にお飾りください。元旦には灯明をつけ、香炉に燃香し、蠟燭は朱(又は白)を立てます。金香炉に焼香いたしましたしてお勤めください。四日のお朝事過ぎにお鏡餅を下げ、お飾りを取払います。平日の通りになります。(御内仏のお給仕と心得より抜粋)

◆御正忌報恩講団体参拝

去る十一月二十六日(日)に大阪教区別院門徒会として天満別院より十五名で御正忌報恩講の日中法要に団体参拝いたしました。

その後、昼食には湯豆腐、懐石料理で有名な八千代にてお食事をいただきました。この南禅寺周辺の街は「南禅寺といえば湯豆腐」といわれるくらい有名な場所で、この日は日曜日ということもあり非常に多くの観光客で賑わっていました。

その後、親鸞聖人御誕生の地である日野誕生院に場所を移し、親鸞聖人が産湯に使ったとされる「親鸞聖人産湯井戸」、そして親鸞聖人のへその緒を埋めたという「親鸞聖人胞衣(えな)塚」を見学いたしました。この場所は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の飛地境内になっています。

そして国宝の阿弥陀堂、阿弥陀如来坐像の法界寺を見学いたしました。ご門徒の皆様には朝早くからお集まりいただき、ありがとうございました。

輪番雑感

今年も残すところ一カ月となり、一年の経つ月日の早さに少なからず嘆息がでた。そんな時、『わが心のよくて 殺さぬにはあらず』(松本梶丸師著書)を再読していたら、こんな句が紹介され、次のように説かれていた。

「去年今年煩惱無尽慈悲無尽」永久

この漢字ばかりを連ねた句は、暁鳥敏先生を終生よきひとと仰いだ野本永久さんの句である。私も、いまこうして過ぎてしまった一年を顧みると、ひとことといえば、尽きることのない煩惱にさいなまれた日々であった。今年もまた、人間として生きる限り、煩惱無尽の日々であろう。「又、風吹きて華を散らす」。『大無量寿経』に出て

くる言葉である。私たちの日々の生活は、いろんなご縁の風が吹いて、煩惱の華を散らす。その花吹雪がやんで仏さまが見えてくるのではあるまい。その花吹雪のまんやかに「念仏せよ」との呼びかけがあるのである。尽きることのない煩惱の闇ならばこそ、この身を照らす如来の大悲もまた尽きることのない深さをもっている。「如来の智慧海は深広くして涯底なし」『大無量寿経』この句は、そのことを語りつくしている。

たとえ一年の経つのは早くても、「本願力に会いぬれば空しく過ぐる人ぞなき」と親鸞聖人が示してください。このように、念仏の教えに遇えば、この一年に無駄なことは何一つなかったことにうなずき、空しいと思っていた一年が充実し、進歩し、深まっていくことを教えてくださっている。